

散居村の保全と活用 シンポジウム

～ 散居村を生かした砺波らしい豊かさを求めて ～

第 1 回

平成 24 年

9月 23 日(日)

13:30～16:00

砺波市文化会館

多目的ホール

(入場無料)

【プログラム】

13:30～ 主催者挨拶

13:40～14:30 基調講演:世界に誇れる日本の原風景「散居村」
－ 砺波平野の歴史・顔・財産 －

講師:上野幸夫 氏(職藝学院 教授)

14:40～16:00 パネルディスカッション:「散居村の魅力再発見」

パネリスト:上野幸夫 氏

柏樹直樹 氏(砺波カイニョ倶楽部 代表幹事)

川崎和夫 氏(庄川峡観光協同組合 理事)

寺島正浩 氏(鷹栖夜高保存会 前会長)

【主催】 散居村の保全と活用シンポジウム実行委員会

【後援】 砺波市 砺波市地区自治振興会協議会 砺波商工会議所 庄川町商工会 特定非営利活動法人 砺波土蔵の会

【問い合わせ先】 砺波市建設水道部都市整備課内 (砺波市栄町7番3号 TEL:0763-33-1111)

シンポジウム開催にあたり

砺波平野一面に水田が広がり、その中にカイニョと呼ばれる屋敷林を持つ家々が点在する散居村の風景は、日本を代表する農村の原風景として、多くの人々を魅了しているだけでなく、世界遺産にも匹敵する風景と言えます。しかし、高度経済成長とともに、生活様式の変化や大規模な開発などにより、その風景は大きく変化しつつあります。

この風景は、長年の歴史や文化など、先人がそこに住み続けることで形成し、維持されてきた地域の大切な資産であり、今後、ここで生活し続けることで、次の世代へ引き継いでいくことができます。そのためには、散居村の価値を改めて再認識しながら、散居村が有している資産をいかに活用できるかを考え、実践することで経済的に豊かとなり、全国的に希少なこの資産を次の世代に引き継ぐことができるのではないのでしょうか。

散居村の保全と活用シンポジウム実行委員会 代表 尾田武雄

第1回シンポジウム 講師・パネリスト紹介

【基調講演・パネリスト】

上野 幸夫（うえの さちお）

1957年宮城県生まれ、富山市在住。
国宝瑞龍寺(高岡市)を始め、全国各地の文化財修復を指揮し、多くの歴史的建造物の調査修復・町並み再生を行う。平成9年より職藝学院 教授に就任し、若手職人の育成に努めながら、富山県及び市町村の計画審議・文化財保護審議委員などを務め、現在に至る。



【パネリスト】

川崎 和夫（かわさき かずお）

1951年砺波市(旧庄川町)生まれ、庄川町金屋在住。
庄川峡観光協同組合 理事、水記念公園カンパニー 専務理事。現在、庄川水記念公園の指定管理を通し、足湯や庄川峡桜まつり等、地域にある資源を活用した新たなイベント企画やゆずソフト等の新商品の企画・開発を通して、地域活性化に努めている。



【パネリスト】

柏樹 直樹（かしわぎ なおき）

1935年砺波市生まれ、荒高屋在住。
砺波カイニョ倶楽部 代表幹事。富山営林署勤務で培われた樹木や樹林の知識を生かし、屋敷林の保全に向けた取組を実践している。現在、砺波市保存樹等保全委員会 委員長、砺波市屋敷林保全管理検討会 委員長等を務める。



【パネリスト】

寺島 正浩（てらしま まさひろ）

1973年砺波市生まれ、鷹栖在住。
鷹栖夜高保存会 前会長。平成13年から一時休止していた地域の祭礼行事(夜高祭り)を、若者の地域コミュニティ向上と子どもたちへの地域伝統行事継承を目指して平成21年に再興し、地域の一体感づくりを実践している。



<次回予告>

第2回 平成24年11月25日(日) 13:30~16:00 砺波市文化会館 多目的ホール

【テーマ】散居村を生かした経済の活性化

第3回 平成25年1月27日(日) 13:30~16:00 砺波市文化会館 多目的ホール

【テーマ】散居村の保全と地域の発展